

地域情報紙 [月刊]



えーす

2025 年 5 月号

発行：株式会社プロジェクト・エース
〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北 1-36-9
エールハイム 202 TEL 03-5364-9301
https://projectace.jp/
info@projectace.jp

年間購読料：5,500 円（税込） 毎月 1 日発行 通算 9 号



今月の主な内容

- p1 岸本聡子区長インタビュー
- p2 西荻窪に都市型軽費老人ホーム新設
一級眼鏡作製技能士 ツバメヤ眼鏡店
みんなで楽しめる「ミニボウリング」
子ども食堂 in 東京立正
福島コラボの桃甘酒を企画販売
はかりうりのみせ Hoppe
- p3 遺跡に魅せられて～感動を呼ぶ空間づくり～
【読者投稿】keyaki cafe
「困った人？」連載④
「おきやんち」講座や無料相談会などで地域に発信
- p4 田中良前区長を囲む会
杉並区気候区民会議シンポジウム
暮らしの防災ミニガイド⑤
河北総合病院 新病院開設に向けて 連載⑦
春の交通安全運動 自転車の事故防止を重点に

らく時を置いてまた議論します。このような議論を重ねて
施策を修正したり、新しい政策を作っていきます。中長期
的な政策は慌てず忍耐強く議論する必要もあります。

——リーダーはある意味孤独ですが、今の自身をどの
ように感じていますか？

岸本 職員と議論をしながら道筋をつくっていくことが、仕事の醍醐味であることは間違いありません。しかし、私には選挙で選ばれた責任がありますので、孤独や葛藤があるのは当然です。それでも仕事を通じて信頼関係が深まり、目標をより多くの人と共有できている未来をイメージして仕事をしています。時には、否定的な意見をもらうこともありますが、私自身は拒絶や断絶をせず「バックグラウンドが違って、地域社会をよくしたいという気持ちは同じ」と受け入れ、自分自身も変化することで成長したい。それが対話の意味であり豊かさだと思っています。

——区長は「対話」を掲げていますが、その想いや意図が正しく伝わっていないのでは？

岸本 対話集会を重ねて時間と費用がかかるばかり、という声をいただくこともあります。でも「対話＝集会」ではないのです。「対話」には様々なカタチがあります。地方自治体がより精度や実効性の高い政策をつくるためには、私たち職員が地域に出ていき、地域の多様なステークホルダーと話し合い、知見を得て、区民ともに政策をつくっていくプロセスが重要です。そして実際に取り組みを進める段階になったとき、対話を重ねてきたステークホルダーの方たちが多いほど、行政と共に行動してくれる人が多いということです。こうした好循環を目指しています。対話は区役所の中にも生まれています。昨今、一つの課で完結する行政課題は少なく、共有、連携、協力は必須です。我々の社会は急速に動いていて、より実効性の高い政策を打ち出すためにも地域社会と区役所の「対話」は欠かせないのです。

岸本聡子区長
インタビュー

未来に続く“対話”の種まき

岸本聡子杉並区長が誕生して3年。杉並初の女性区長であり、自治体職員や政治家としての経験がなく、生まれ育ちも杉並ではない、という人が現職を破り、話題をさらった。この間、区長としての日々は何を想い、向き合い、そして何を成し遂げたいのか。自身のSNSでの積極的な発信、議会や公的な場での発言ではなく、直接の“言葉”を聴かせていただきたい、とインタビューを申し込んだ。議会答弁や公的な場所での挨拶で見せる、控えめで遠慮がちな緊張感漂う雰囲気とは違い、表情豊かに力強く語るその言葉には、培ってきた信念の源が垣間見られた。

(文：中田／写真：水田)



——この3年、ご自身の中に変化はありましたか？

岸本 日々変化していますが、「変わらないもの」もあります。自分が大切にしている価値や倫理観、こういう社会でありたいという想いです。また、基礎自治体の役割とは何かという問いへの答えも基本的には変わりません。“今”助けが必要な人に手を差し伸べることで、同時に、“今”とは別の時間軸を持って戦略的に「未来の地域社会のウェルビーイングをデザインする」こと。一人の幸せと社会の幸せを追及する責任の重い仕事ですが、それだけに10年後、50年後の地域の未来を構想するやりがいを感じています。

——地方政治の場では「地元出身」が強みと言われがちですが、岸本区長はそうではないですね。

岸本 確かに地域を熟知していることは強みだと思います。しかし、大都市では地元の人だけでなく多くの人があらゆるところから集まってきて生活や仕事をしています。私の強みは、「外の視点」です。多様な主体が参画して、より民主的にものごとを決めていく、世界の自治体

の政策づくりや合意形成の現場に、民間のシンクタンクの立場から関り、その難しさや複雑さの中で仕事をしてきました。自分にはないものを「謙虚に貪欲に学ぶ」姿勢は誰にも負けないつもりです。地域の良さや強さを日々発見し仕事に活かしていく日々です。

——政治経験ゼロからのスタートでした。どのような壁や驚きがありましたか？

岸本 毎日のように戸惑いや葛藤はあります。でもどんな仕事もそうではないでしょうか。私は約20年間、国際的な民間組織で、事業立案と実行、研究や国際会議、広報活動、資金調達、本の出版、組織のマネジメントなどいろいろなことを経験しました。

杉並区役所という職場での経験はありませんでしたが、就任以降、行政の中の過去の経過、仕組みやルールについては職員がサポートしてくれますし、私はそれを信頼しています。一方で、どんな組織も多様性があることで、リスクを回避し未来志向のイノベーションが生まれるとも思います。私の問題意識を伝え、職員と課題を共有し、その課題をどう見ているのか聴き、課題を整理して、しば



——対話の場のひとつ「気候区民会議」の総括で指摘
がありましたが、「事業者」の参画が足りないのでは？

岸本 人口減少社会です。脱炭素社会、共生社会という大きな方向性の中で、居場所づくりをはじめ孤立や孤独などの問題に取り組んでいる事業者や地域の方々の自立的な力を認識し、つながっていくことが大切です。地域住民や企業が実験的な取り組みをするときに、行政がバックアップして、時には助けられたりしながら未来をつくっていく。こうした立場を超えた様々な人が集まって協働する社会モデルの試行や実装の活動を、地域の人々と一緒に汗をかき成功事例や体験を重ねていきたいし、現にこのような取り組みは始まっています。

——道路計画や開発、整備などに関することでは、権利問題や利害関係もあり「対話」は非常に時間がかかりますが、いずれは「結論」「決定」「決断」に収斂していくことも必要になりますね。

岸本 道路を造る未来と造らない未来、それぞれに幸せと幸せでない未来があります。どちらであってもより幸せな未来を選びたい。そのためには、より多くの区民との情報共有と理解、参画と納得が必要です。事業の目的は何か、それを達成するためにどのような選択肢があるのか、それを共有できるか、情報がないと区民は判断できません。情報を出せるのも共有の場所をつくることもできるのも行政です。だから調査をしたり、時には都や国に情報を求め、可視化し、地域の中で共通の土壌で話ができるようにする必要があります。話さないことで道を閉ざすのではなく、可能な手段を示しそれを対話によって選んでいける環境が必

要なのです。大変な作業です。すべての人が満足する答えはありませんが、「納得解」を探し、その努力の末に、時にはリーダーが判断しなければなりません。

——これから力を入れたい分野は何でしょう。

岸本 戦後80年の節目に平和の継承というテーマに一步踏み出したいです。子どもたちは世界で起きている戦争や紛争に直接的、間接的に傷ついています。平和は祈るだけでは実現せず、そのための行動をしなければ守れない。戦争の記憶をどう継承し、戦争を知らない世代に伝えていくか、全国的な課題です。原水爆禁止署名運動が杉並の公民館から生まれ、全国にそして世界に広がったことはかけがいのない歴史であり誇りです。平和を希求する区民の思いを次世代につなぐために、区は想像力をもって力を尽くしたいと思っています。

——最後に地域の人たちへのメッセージを。

岸本 私は、ここ杉並から、分断社会の逆にある、より民主的な社会を作るために、地方自治体で何ができるのか日々チャレンジしています。杉並には長い年月で培ってきた素晴らしい歴史や興味深いものがたくさんありますが、社会が大きく変化している中で、地域課題も多様化してきています。

杉並区がより魅力的で誰もが住みやすいまちとして発展していくには、地域のこと、まちのことを「自分ごと」に捉える人が増えていくことがとても大切です。そして、行政と住民・NPOなどの様々な立場の人々が信頼、協力し合うパートナーとなって、地域の課題解決につながる取り組みを進めていきます。

西荻窪に都市型軽費老人ホーム新設

西荻北一丁目に4月10日、都市型軽費老人ホーム「マイルドハート西荻」がオープンした。

同施設は全室個室・定員19名となっており、1階部分にはショートステイ10床が併設されている。都市型軽費老人ホームとは、自立した日常生活に不安のある高齢者を対象に、低額な料金でサービス提供を行う施設。利用料金には家賃に相当する居住費、食事・光熱水費等の生活費として、年収区分によって負担額が決められている。料金表によると、例えば年収150万円以下の場合、本人負担月額は約11万7千円。

介護保険の施設ではないため、入居後に介護サービスが必要となった場合には外部の在宅サービスを利用する。運営は**社会福祉法人鶴足津（うたづ）福祉会**。

マイルドハート西荻
杉並区西荻北1-19-9
電話 03-3390-2831



ツバメヤ眼鏡店・杉谷宗彦さん

一級眼鏡作製技能士

悲願の国家資格化、めがねづくりの総合的な専門家として

高円寺で創業80年を迎えるツバメヤ眼鏡店代表の杉谷宗彦氏は、「一級眼鏡作製技能士」の国家資格を持つ。この資格は、視力測定からレンズ選定、フィッティングからアフターケアまでを担う眼鏡作製の総合エキスパートとして、国家資格化された。先進国で唯一、日本と韓国だけが長年この分野に資格制度がなかったという事実、杉谷氏は強い危機感を抱いてきた。「眼鏡は単なる視力補正の道具ではなく、顔の一部であり、寸法や重さなども含めた総合的な技能と提案が求められる。お客様と話す中で、時には眼科受診をお勧めすることもあり、眼鏡を作るだけでなく、お客様に必要なことを提案できる専門家でありたい」と



強調する。眼科医等からの理解を得て、技能の重要性が再認識される中、3年前に国家資格化され、今では1級2級と合わせて全国で約8000人の有資格者が活躍している。

さらに同店では、徳島の藍染めを活かした眼鏡フレームの制作や、「目育士（めいくし）」の資格に基づいたカラーセラピーの提案など、独自の取り組みも展開。杉谷氏は「資格制度の存在や意義をもっと社会に伝えていくことが必要」と語り、信頼される眼鏡店としての役割をこれからも果たしていくと決意を示した。

荻窪ボウルの地域交流、地域貢献

みんなで楽しめる「ミニボウリング」

荻窪ボウル（林聡史支配人）では、子どもから高齢者まで、障害があっても、誰でも楽しめる「ミニボウリング」を地域のイベントや福祉施設などで行っている。6mほどの長さのマット状のレーンを敷き、約1.8kgの軽いボールと0.3kgのプラスチック製のピンを使うため、体の負担も少なく、場所を選ばずに実施できる。

ボウリング場に足を運ぶのが難しい人にも、ボウリングの楽しさを届けたい。そんな思いから、荻窪ボウルのスタッフが出張してサポートしており、区民センターでのイベントや福祉施設でのレクリエーションなどに活用されている。

林支配人は「もっと多くの人に体験してもらえたら嬉しい。興味のある団体・施設の方は、ぜひ気軽に声をかけてください」と地域に向けた活動に大いに意欲



を見せている。

また同ボウリング場では「健康ボウリング教室」を通じて、主に中高年齢層を対象に健康に関することとボウリングについて学びながら、ゲームを楽しむ活動を行っており、卒業生で引き続きボウリング愛好者になってサークル活動に発展している人たちが250名を超えて今も活動中。今後はジュニアの育成にも力を入れ、レクリエーションとしてだけでなくボウリングの競技としてのグレードアップにも力を入れる。

荻窪ボウル
杉並区上荻1-16-16 ユアビル4～6階
電話 03-3398-1791

子ども食堂 in 東京立正 約300人の大盛況、大人も子どもも

東京立正中学校・高等学校（学校法人堀之内学園）で4月5日、子ども食堂が実施され、桜が満開の学校には昼前から大勢の家族連れが続々と訪れた。食堂に準備されたカレーにサラダ・飲物など約300食が完食。また缶バッチやバルーンアート等の工作コーナー



が設置され賑わった。主催は一般社団法人東京キワニスクラブ、NPO法人すぎなみ子どもサポート、ボランティアは東京立正中学校高等学校および短期大学の学生有志と、寺子屋サポーターのスタッフ。子ども食堂 in 東京立正は今回と夏休みの年2回予定されている。また、東京キワニスクラブでは子どもたちが遊び・学び・昼食を楽しむ「寺子屋」を堀之内妙法寺で月2～3回開催し、東京立正高等学校の生徒もボランティアで参加している。

東京立正高等学校 福島コラボの桃甘酒を企画販売

東京立正中学校・高等学校（学校法人堀之内学園）は2015年から「イノベーションコース」を設け、持続可能な地域・社会に貢献できる人材育成に注力している。その授業の一環として、食品ロスを生徒目線で考え、廃棄予定の福島のブランド桃を利用した甘酒「桃源郷」をコラボ企画として共同開発・販売。4月5日の「子ども食堂 in 東京立正」や3月20日の「気候区民会議シンポジウム」の会場で試飲販売を行った。ノンアルコールで桃果汁を使用しているため、なめらかで優しい甘さは子どもでも飲みやすく、子ども食堂では食事後に購入して帰る家族も。なお、今後もウェブや各地マルシェで販売予定と



なっており、情報は東京立正中学校・高等学校の公式SNSからも発信されている。



はかりうりのみせ Hoppe

必要な分だけ、心地よく

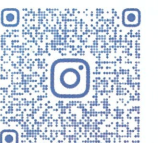
まちサロン「おきやんち」や、座・高円寺で行っているマルシェなど、地域の店舗を活用する形で出店をしている「はかりうりのみせ Hoppe」。井田みづきさんが営むこの店は、客自身が持参したタッパーなどの容器に必要な量を買える「はかり売り」を採用している。売り手側の工夫でプラスチックごみの削減ができないのかといった想いから始めたもので、調味料、パスタ、ドライフルーツ、お菓子などの商品を20gから購入可能。余分な買い物を減らし、食品ロスを防ぐ。特に人気の商品はナムルの素やパルメザンチーズ。

はかり売りの魅力は、「使い方のおすすめは？」「美味しかったから今回は〇



グラム買いにきた！」など、お客様との会話が自然と生まれること。地域の人々とのつながりを深めるきっかけになるという。

※出店情報は「はかりうりのみせ Hoppe」のInstagramなど公式SNSをチェック！



@HOPPE.HAKARIURI_NO_MISE

私たちは すぎなみ ace えーす を応援します！



株式会社
栄和サービス

代表取締役 花形明利

東京都杉並区堀ノ内2-11-32
Tel. 03-5305-7027



株式会社
アーバンファミリー

アフラック募集代理店
代表取締役社長 榊原裕記

東京都杉並区上荻1-23-19-4A 東神荻窪ビル
Tel. 03-3391-8808



株式会社
渡辺一建設

代表取締役 渡辺功一

東京都杉並区堀ノ内2-32-4
Tel. 03-3313-3121



株式会社 MK ホールディングス

代表取締役 牧野光洋

東京都杉並区堀ノ内三丁目25-5
Tel. 03-3313-2511

メンバーズサロン『間』のメンバー講話

遺跡に魅せられて

～感動を呼ぶ空間づくり～

一級建築士事務所 株式会社歴史環境計画研究所 代表
遺跡デザイナー

秋山 邦雄 氏



筑波の大規模な研究所や大手企業の本社ビルなどを手掛ける設計事務所スタッフとしての仕事を経て、40 歳を過ぎて独立しました。独立する少し前、文化財保存整備の設計を見て、物足りなさ、ちょっと違うのでは？という疑問を抱き、関わらせていただく機会を得ました。日中は設計事務所の仕事をしながら、帰って半年以上かけて作り上げたものが好評で、すっかり遺跡の魅力にはまってしまいました。ちょうど独立を考えていたこともあり、思い切って「歴史環境計画研究所」を立ち上げ、以来 40 年になろうとしています。

遺跡の仕事で大切なのはまずは調査・研究です。その本質的な価値を正確に把握し、保存、整備する。さらにはそれを公開、活用することです。単に資料館を建てればよいというものではありません。地下に埋まっている文化財を守るために、堅穴住居跡の上に建物を作るのではなく、資料館を別に建て、その中で住居跡を正確に復元して展示する場合もあります。人骨や遺構は、空調やそれなりの環境を整えないと傷めてしまうので、現物を展示せずに復元して配置するなど、公開のための工夫をすることもあります。

さらには公開して見て、知っていただくというだけでなく、活かす、活用することが大切です。石器・土器づくりや火おこし、ろうそく作りなどの体験から学ぶことも多い。土器や石器が作られるようになり、煮

炊きが可能になったことで人々の生活が変化し、定住化も進む、このような人類の歴史の変遷を体験的に学ぶことができます。また、地層断面を見られるような施設を造ることや、森を縄文種の木々で再生したことや、建物ではなく大きな樹を植えて自然の日除けを演出したこともあります。世界遺産などに指定されるようなストーンサークルのある遺跡も発見されていますが、人が多数訪れたり、周辺が開発されることを想定して周辺に周回道路を設けて内側を遺跡として、施設には雰囲気大切にトイレ施設をきちんと整備するなど、これも遺跡デザインの仕事です。安易にコンクリートの基礎を打ってしまうことで、かえって土台の木を腐らせてしまうこともあり、現代建築の技術も取り入れ、省エネルギーの空調設備を施すことも重要です。一方で当時の技術を用いて人力で組み上げるようなこともあります。

このように造られたところで子どもたちの体験学習、青空教室を継続的に開き、地元の学生がガイドをしてくれたり、地域の皆さんと保存会を立ち上げるなど、伝統的なものと現代建築をもって、地元の人たちの力やコミュニティのために活用すべきだと考え取り組んでいます。私はこの仕事を通じてたくさんの遺跡やそこに関わる人たちと接してきて、日本人の持つ「品と技術と思いやり」、これが何より大切と、皆さんに伝え続けていきたいと思っています。

阿佐谷南の新東京会館にあるメンバーズサロン「間(ま)」は、地域の企業経営者や地域活動に参画している人々、地域のことに関心を持って活動・生活している人たちの集う場。そのメンバーが自身の仕事や活動、まちづくりについて、想いや考え、主張、意見・アイデアなどを語るメンバースピーチを行っている。

提供：(有)トライエム

読者投稿

編集部では皆さんからの情報を募集しております。お気軽にお寄せください。

keyaki cafe

【阿佐谷地域区民センター1階】

阿佐谷地域区民センターは、JR阿佐ヶ谷駅から高円寺駅方向に徒歩約5分、高架線沿い北側に立地。大きな樺(けやき)の木がシンボルで、かつて「けやきプール」として区民に親しまれた場所で、3年前に移転してきました。前は公園、中にある児童館は幼児、小学生らで賑わい、たくさんある集会室は様々な会合に利用され、楽器練習室などもあります。屋上は芝生の広場で子どもたちが遊べるほか、特急や快速など電車が走る姿が眺められます。

1 階にある「keyaki cafe」は午前

11 時から午後
4 時までの営
業(火曜定休)。

メニューは飲み物に軽食で、夏はかき氷、冬は白玉ぜんざい、平日限定で季節のパフェもあります。ホットドッグはチーズとプレーンの2種類。最近はおムライスも始め、コンソメスープ(おかわり自由)が付いて 650 円とお手ごろ。数量限定のため、早い時間帯で売り切れます。センターのイベントに参加するもよし、カフェで軽食、ドリンクを楽しみながら、リラックスできる時間を過ごすのも◎。



(高円寺南 T・S さん)

「困った人？」

発達障害・パーソナリティ障害を
みんなが理解すれば……『あなたを悩ます困った人 障害やこころの病気を理解する』
(著者：柴田豊幸氏) より

第4回 パーソナリティ障害とは？①

精神障害の一つに、パーソナリティ障害というこころの病気があります。「妄想性」パーソナリティ障害など 10 の障害の総称で、3 つのタイプに分けられます。(右上の囲み参照)

例えば、パートナーの浮気を疑い頻繁に連絡する、好意を寄せる相手から思うような反応が得られないと逆恨みの行動に出る、などは妄想性パーソナリティ障害の可能性がありま

す。DV の加害者には、「妄想性」、「自己愛性」、「反社会性」、「強迫性」のタイプが多く見られます。一方、歴史上の著名人に見られる「境界性」では、自傷行為や自殺未遂に至る可能性が示されています。このほか、感情の揺れが激しい、ストレスに弱く他人を巻き込みやすいなど、タイプによって異なり、またほかの疾患や障害も抱えていて、一人ひとりが違う特性を持って



【著者紹介】(株)チャイルド社会長・(株)幼保経営サービス社長のほか、パピーナ保育園ほか各地の保育園総園長や社会福祉法人理事長などを務め、自身も保育士資格を持つ。地域では荻窪法人会会長、東京商工会議所杉並支部副会長、杉並区社会福祉協議会理事など。

【著書・監修】『あなたを悩ます困った人 障害やこころの病気を理解する』『選ばれる園になるための実践マニュアル』『どうする!園の赤字』『園の働き方改革』など多数

障がいやこころの病気について考える



いることがあります。

先天的な障害である発達障害と違って、パーソナリティ障害は後天的な要因が主です。ただし、発達障害がパーソナリティ障害の原因にもなります。その原因は、①育てられ方の影響・環境・親子の愛着関係・虐待・ネグレクト(育児放棄)親の生き方 ②生まれ持ったパーソナリティ障害の気質・遺伝子が人間関係や生活環境のストレス・育てられ方等により表面化することがあります。

見えづらい障害で周囲からわかりにくいため、気づかないうちに傷つけられたり、追い込まれて状況を悪化させられたりします。そのため、まずはパーソナリティ障害を疑い、その中でもどのタイプに属しているのかを確認し、本人だけではなく周囲の人も理解することが大切です。

阿佐谷北「おきやんち」講座や無料相談会などで地域に発信

おきやんち(阿佐谷北3 -7-13)で4月20日、第10回おきやんち講座が開催された。杉一小学校支援本部長の伴野博美氏が同校の「朝先生」や「すぎっこくらぶ」などの学校支援活動の取り組みについて紹介。参加者からの質問や意見交換も活

発に行われた。

このサロンでは地域向けに様々な主催講座を開いており、5 月からは新たに不動産コンサルティングマスターの堀田直宏氏を迎えて、不動産に限らず相続や終活など幅広く「何でも相談」を企画準備中。



編集長のつぶやき



力を合わせて奏でる魅力

オーケストラの演奏会は好きなもののひとつだ。ホールでの迫力ある生のクラシックコンサートはもちろん、最近ではテレビ中継も別の楽しみがあることに気づいた。ホールでは見えない指揮者の表情や、演奏者それぞれの動きなど、実はこれを見てファンになった奏者を繰り返し観るのが、最近のささやかな楽しみである。大曲の後半でごく短時間だけ登場する楽器、滴る汗を拭くこともせずに演奏し続ける人、一瞬の息を抜く表情など、その集合体なんだと思うと聴くだけでなく、見入ってしまう。規模の大小にかかわらず、それぞれ

の楽器や声、作り込まれた曲や演出、いろいろな要素が奏でられて出来上がった作品に魅せられる。音楽に限らず演劇、舞台、映画、出版などクリエイティブな世界のほか、どんな仕事にも共通する。人が力を合わせて何かを成し遂げる姿に感動する。だからこそ、地域で生きる人たちの言葉や声を紡ぐことに大きな意味がある。そう信じて情報紙を試行錯誤しながら作っているのだが、声や言葉、原稿を寄せてくださる人が少しずつでも増えていることに大きな勇気をいただいている。まだまだ力不足を痛感する毎日だが、叱咤激励の声を受けて、自身を鼓舞しているところである。

編集発行人 中田あかね

私たちは すぎなみ ace を応援します!

KOKENSHA

セッション杉並

株式会社 興建社

杉並区荻窪5-18-14 / 総合建設業

LOGISTIC SERVICE

OHTAKA

株式会社 オータカ

代表取締役社長 大高一義

東京都杉並区堀ノ内3丁目37番5号

Tel. 03-3315-7151

人の創造性をフルに発揮させるオフィスデザイン

Cozy inc.

株式会社 コージー

代表取締役 氏橋治信

東京都杉並区成田西3-12-9

Tel. 03-3392-8161

HIRO

Architects & Associates

有限会社 ヒロ空間企画

代表取締役 小野博文

東京都杉並区方南2-12-18 多田ビル4F

Tel. 03-3318-1073

田中良前区長を囲む会「杉並ブランド」のあり方を問う

4月9日、新宿・京王プラザホテルで「田中良前区長を囲む会」が開催された。前段では過去5人の区長のもとで杉並区行政に従事し、政策担当も務めた高（たかし）和広氏が「問われる杉並区のリーダーシップ 区長公選制復活から50年」と題して講演。区政の各分野における現状と課題を提示し、「杉並ブランドが溶けて無くなる」という危機感を抱いていることを語った。その後に登壇した田中良氏も持論を展開し、生まれ育った杉並での再度の挑戦を力強く語っている。

後半の懇親会も含めて300名を超える参加者があり、議会からは公明党、都民ファーストの会の議員らが参加。地元の商工団体役員クラスの経営者層なども多数出席している。



田中良前区長

杉並区気候区民会議シンポジウム

「杉並区気候区民会議シンポジウム」が3月20日、西荻地域区民センター・勤労福祉会館で開催された。気候区民会議は、無作為抽出の5,000人の区民に呼び掛けられ、応募があった200名弱の中から16歳から79歳までの区民80名ほどが選ばれて、ちょうど1年前のこの日から6回の会議を開催。総括として33の意見提案が区に提出された。シンポジウムは会議の報告のほか、ごみ清掃員でもある芸人・マシンガンズの滝沢秀一氏の講演、パネルトークなどが行われた。気候区民会議は数年前にヨーロッパで拡大した「気候市民会議」の杉並版で、岸本聡子区長が就任後、2050年にゼロカーボンシティを目指すとの意欲を示して実現したもの。区役所内で体制を整えるなど準備を進め、会議は参加した区民



が土曜日に3時間の会議に臨みながら、12のテーマを分担して議論を重ね、具体的な提案を導き出して終わっている。報告会で総括した名古屋大学大学院の川上直之教授は「念入りに設計され、周到な準備をして実現した会議」と高く評価する一方、区民参加の面では良かったが、事業者も含むステークホルダーや市民団体などの意見を聞くことや、区役所のフィルターを通じてまとめられ、伝えられたものになっていないかなど、今後は生々しい議論の余地もあるといった課題にも触れている。今後のこの提案を区政の中でどのように具現化するのかが問われている。

／ 知ってあんしん！ ／

暮らしの防災ミニガイド

第5回 大雨・台風シーズン前に水害への備えを【前半】

筆者はよく、善福寺川周辺でジョギングしています。春夏秋冬、季節ごとの景観を楽しめる素晴らしいコースです。自然から何かを得るということは自然との距離

が近い、ということでもあります。大雨・台風シーズンとなる6月～10月頃を前に、改めて水害に備えましょう。

身近な「内水氾らん」に注意

都市部では周囲より低い場所（交差する道路の下「アンダーパス」など）、用水路、下水道などから水があふれ出す「内水氾濫（らん）」に注意が必要です。各地の水害でも、地下街の冠水、地下室への浸水、アンダーパスに進入してしまった車内など、河川とは離れた場所で犠牲者が出た事例



杉並区水害ハザードマップ

が数多くあります。

こうした場所はハザードマップ（図）である程度分かりますが、大切なのは日々の暮らしの中で「ここは大雨のとき危ないな」という視点を持つこと、大雨や台風の情報をいち早く知り、危険な場所には近づかないことです。次回【後半】でどのようにして情報を知り、備えるのかをご紹介します。

すぎなみ ace 公認 防災ガイド：災害支援・防災教育コーディネーター／社会福祉士 宮崎 賢哉（杉並区在住）

すぎなみ ace はこちらに置いていただいています

アイ・ティ・エス（荻窪）／アマヌマコムギ（本天沼）／阿佐ヶ谷すずき診療所（阿佐ヶ谷南）／アンファミーユ（enFamille）（天沼）／石井薬局（阿佐ヶ谷南）／大藪保険コンサルタント（天沼）／おきやんち（阿佐ヶ谷北）／オートセンターイグチ井草店（井草）／カレーショップKYU-（阿佐ヶ谷北）／河北総合病院（阿佐ヶ谷北）／木村屋（阿佐ヶ谷北）／KUMARI 阿佐ヶ谷（阿佐ヶ谷南）／高円寺 PAL 商店街組合事務局（高円寺南）／高円寺南保育園（高円寺南）／興建社（荻窪）／さんじゅ阿佐ヶ谷（阿佐ヶ谷北）／さんじゅ久我山（久我山）／視覚障害者支援総合センター（桃井）／新泉サナホーム（和泉）／杉並区立中央図書館／西武信用金庫 阿佐ヶ谷南支店（阿佐ヶ谷南）／とらや椿山（阿佐ヶ谷南）／脳梗塞リハビリセンター阿佐ヶ谷（阿佐ヶ谷南）／PIZZA FORNO CAFÉ ピーンズ阿佐ヶ谷店（阿佐ヶ谷南）／マイルドハート高円寺（高円寺北）／ミスティ・オーパース（阿佐ヶ谷南）／武蔵商事（上荻）／Yazetto（阿佐ヶ谷北）／渡辺建設（高円寺南）



連載⑦

地域の急性期医療を担う河北総合病院の新病院、それを取り巻く医療環境や連携の姿が整っていくことが、地域の安心、安全を支えることにつながる。「医療連携」や「地域包括ケアシステム」は、私たち地域で生活する一人ひとりも知って、意識しておくべきことのひとつではないだろうか。河北総合病院「健康生活支援統括センター」を率いる岡井隆広医師にお話しいただき、一緒に考えてみたい。（中田）

地域包括ケアシステムの構築 急性期病院を中心に地域の健康と生活を支えるしくみ

「健康生活支援統括センター」は、河北医療財団の中でも「河北透析クリニック」「介護老人保健施設シーダウォーク」「河北ファミリークリニック南阿佐谷」「河北健診クリニック」を統括し、さらに地域のクリニックや病院、施設と連携しながら、「地域包括ケアシステム」の推進を担っています。

河北総合病院は2006年にこの地域ではトップクラスの早さで「地域医療支援病院」に指定されています。1986年には、地域の診療所の先生方と医療連携を行うネットワーク（SRHS：Suginami Regional Health-care Systems）を立ち上げ、厚生省（現厚生労働省）のモデル事業としても採用されています。さらに、2005年にはKHC（Kawakita Health-care Collaborations）を立ち上げ、現在約500の医療機関等と連携。その一部の医療機関とは当院の電子カルテ情報を共有するネットワークも構築し、医療の質の向上を図っています。情報を共有することで、患者さんが地域で家庭医や主治医を持ち、継続的なケアを受けられる体制が整いつつあります。

日本医師会の「JMAP（地域医療情報システム）」によると、杉並区は診療所の医師数は全国平均より多いものの、病院の医師数は全国平均より少ない地域です。また、杉並区は高齢者の割合が高く、65歳以上の人口が21%を超えています。そのため、多くの区民の健康を支えるのは、長く患者さんを診てきた「かかりつけ医」「家庭医」の存在です。病院でなければならない検査や専門的治療は病院で行い、日常的な診療や生活習慣病の管理はかかりつけ医が担う。このように、患者さんにとっては病院と診療所の「二人主治医制」が理想的な形になります。

医療とつながる健康、生活のために 医療者側から皆さんに提案できることも

急性期の治療が終わり退院可能でも、一人暮らしで家に帰れない、住環境が

整っていないなどの理由で在宅復帰が難しいケースがあります。もう少し状態が安定するまでリハビリや療養、老人保健施設などでの一時的な滞在が必要な場合、病院から地域の施設へシームレスに繋げることが重要です。しかし、当院の入院患者のうち、介護保険を利用しているのは約2割にとどまっています。必要な時に介護サービスを受けられないことで、退院後の生活に不安を感じる患者さんも少なくありません。「まだ介護保険は必要ない」「自分には関係ない」と考える方も多いですが、医療者として、患者さんの身体状況や健康状態を踏まえ、介護保険の申請を提案することも大切だと考えています。

また、近年はACP（アドバンス・ケア・プランニング）への関心も高まりつつあります。もしもの時にどうするのか、どのような治療を望むのか。そうした意思表示を事前に確認しておくことは、本人だけでなく、家族にとっても大きな安心につながります。医療者だからこそわかること、伝えられることがあり、提案できるようにでありたいと思います。

新病院は地域でがん診療を完結できる体制を整え、救急医療や高度な専門診療を提供する急性期病院になります。そのためにも、開業医の先生方からの紹介はスピード感を持って迅速に対応し、治療後は再び地域での生活に戻るよう支援していきます。これからも、患者さんを支える「地域包括ケアシステム」を推進し、地域全体で健康と生活を守る医療体制を築いてまいります。



河北総合病院 副院長
健康生活支援統括センター長
河北総合病院院長補佐
腎・リウマチ膠原病・血液センター長
腎臓内科主任部長
入退院・地域情報センター部長
岡井 隆広（おかい たかひろ）

春の交通安全運動 自転車の事故防止を重点に

4月6～15日、「春の交通安全運動」が全国一斉に実施された。今年の運動では「自転車・特定小型原動機付自転車利用時のルール遵守の徹底」などを含む自転車の事故防止が重点項目に置かれた。

東京都による2024年の集計では、区市町村別の交通人身事故発生状況は、発生件数の総数7,156件のうち最多は人口の多い世田谷区406件、大田区の403件、杉並区は11位の211件。杉並区の状態別死傷者（グラフ）を見ると、自転車乗用中の

事故による死傷者数は4割以上を占める。

